年頭所感

北海道知事　鈴木直道（すずき なおみち）

新年明けましておめでとうございます。新春を迎えるに当たり、謹んでご挨拶を申し上げます。

また、北海道医師会の皆様には日頃から、道政各般にわたり、深いご理解と温かいご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

北海道を前へとの想いを胸に、本年も、道政に全力を尽くしてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

昨年を振り返りますと、３年を超える長期にわたり、私たちの生活に大きな影響を及ぼしてきた新型コロナウイルス感染症が、５月には５類への移行という大きな節目を迎えました。これまでの対策へのご理解とご協力に対し、医療従事者の皆様をはじめ、道民や事業者の皆様に改めて心より感謝申し上げます。

５類移行に伴い、社会経済活動が活発化する一方で、不安定な国際情勢などを背景とした物価高騰の影響の長期化や、中国による日本産水産物の全面輸入停止など、道民の皆様の暮らしや事業者の方々の経営環境が厳しい状況におかれた１年となり、道では、価格高騰等経済対策を講じるとともに、道産水産物の消費拡大に向けたキャンペーンを展開するなど、総力を挙げて取り組んでまいりました。

厳しい状況が続く中にあっても、昨年は、本道が国内外から大きな注目を集め、更なる飛躍に向けて大きく歩みを進めた１年でもありました。

ラピダス社の立地が決定し、次世代半導体を北海道から世界に届けるという前例のないプロジェクトがスタートしたほか、日本最大級のデータセンターの建設が発表されました。

また、「Ｇ７札幌気候･エネルギー･環境大臣会合」の開催や本道へのGX投資の促進に向けた官民連携のコンソーシアムの設立など、DXやゼロカーボン北海道の実現に向けた動きも加速しました。

新しい年は、こうした歩みをさらに加速し、安心して住み続ける地域づくりや北海道の魅力を世界に広げる取組を進めてまいります。

このため、社会経済情勢に機動的に対応しながら、足腰の強い地域経済の確立や地域産業を担う人材の安定的な確保などに取り組むとともに、子ども応援社会の実現に向けた取組を着実に進めるほか、ほっかいどう応援団会議を活用した地域を支える応援の輪を広げます。

また、次世代半導体製造拠点の実現に向けた取組を進めるとともに、本道の再生可能エネルギーのポテンシャルなどを活用し、新たな産業や人、投資を呼び込みます。

さらに、インバウンド回復の波を着実に捉え、観光立国北海道の再構築を加速するとともに、戦略的な輸出拡大により道産食品を世界に広げながら、一次産業の生産基盤の整備などを進め、日本の食料安全保障に貢献してまいります。

保健・医療・福祉の充実に向けては、「子育てを社会全体で支える子ども応援社会の推進」「暮らしを守る地域医療の確保と健康づくりの推進」「誰もが暮らしやすい社会の構築」「医療・福祉サービスを担う人材の養成･確保」「感染症に強い社会の構築」という５つの柱に沿って各般の施策を推進してまいります。

また、現在、北海道医師会の皆様のご協力のもと、道の保健・医療・福祉施策の基本となる次期「北海道医療計画」をはじめとする各種計画の策定を進めており、本年はこれらの計画を踏まえ、今後も道民の皆様が、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう将来にわたって持続可能な医療及び介護の提供体制の確保や感染症への対応などに取り組んでまいります。

道といたしましては、北海道医師会の皆様とともに、こうした取り組みを推進し、北海道の確かな未来を創ってまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

本年が、北海道医師会の皆様にとりまして、希望に満ちた素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。